

ヘアリーベッチを利用した不耕起生草マルチ水稻移植栽培について 第4報 水稻移植前におけるヘアリーベッチの草量および雑草量

大脇淳一・佐田利行・山中勝浩¹⁾
(長崎県総合農林試験場・¹⁾ 島原農業改良普及センター)

Junichi Oowaki, Toshiyuki Sata and Masahiro Yamanaka :
Non-tillage Rice Transplanting Cultivation of Live Mulching the use of hairy vetch
4. The Yield of Hairy Vetch and Weed Growth before the Rice Transplanting Date

前報¹⁾²⁾³⁾においてヘアリーベッチの水稻移植後の抑草効果, 肥料代替効果, 田植機開発について報告した。この栽培では安定した草量確保が不可欠であり, 水稻移植前のヘアリーベッチの草量および雑草乾物量の推移を検討した。

1. 材料および方法

試験は2000年から2004年に場内試験田で実施した。水稻作の前年11月中旬に耕起し, 緑肥作物ヘアリーベッチを播種 (0.4kg/a) した。草量および雑草量は4月中旬から水稻移植直前の6月中旬にかけて調査した。播種時期別試験では2003年10月中旬から2004年3月中旬に7回に分けて播種した。草量および雑草量は6月中旬に調査した。

2. 結果および考察

1) 連作試験

前年11月中旬播種の緑肥草量 (生草+枯草) は6月初旬以降40kg/a以上で推移した (第1図)。草量 (生草) のピークは5月中旬で, レンゲより半月程遅かった (第2図)。水稻移植前の雑草は5月中旬以降, 皆無に近くヘアリーベッチの高い抑草効果が認められた (第3図)。連作3年目以降はカズノコグサ等が一部残った (データ省略)。

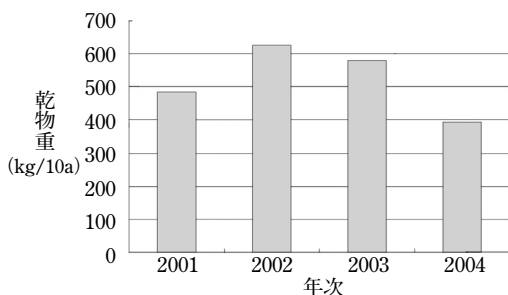
2) 播種時期別試験

ヘアリーベッチ草量は, 11月中旬播種区まで高く推移し, それ以降少なくなった (第4図)。無処理区 (無播種) でみられたヘアリーベッチは, 試験圃場が連作圃場であり, 再生産されたと推察された (第4図)。雑草量は11月中旬播種で最も少なくなり, それ以降播種時期が遅くなるほど多い傾向を示した (第5図)。主な雑草の草種はノミノフスマおよびカズノコグサであった (第5図)。

以上のことから, ヘアリーベッチは雑草抑制の年次推移からみて4年連作が可能であり, 草量および雑草量の播種時期別推移から11月中旬播種が良好と考えられる。

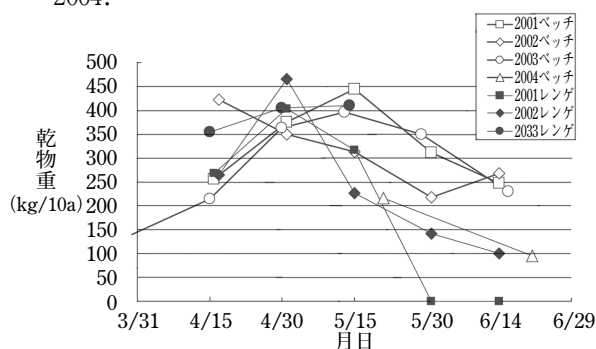
引用文献

- 1) 寺井利久・大脇淳一・山中勝浩：九農研 65, 16, 2003.

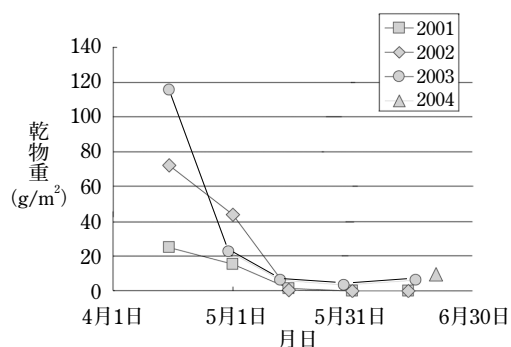


第1図 ヘアリーベッチ草量 (生草+枯草) の推移

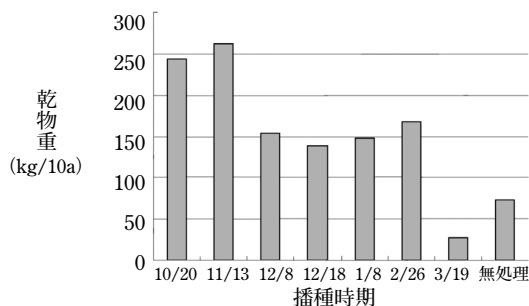
- 2) 寺井利久・大脇淳一・山中勝浩：九農研 65, 17, 2003.
3) 大脇淳一・佐田利行・山中勝浩：九農研 66, 4, 2004.



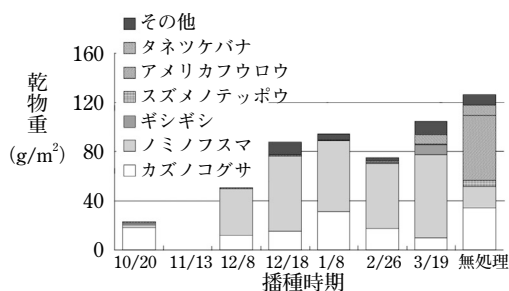
第2図 レンゲおよびベッチ草量 (生草)



第3図 ベッチ区における雑草の推移 (調査6月中旬)



第4図 播種時期別ベッチ草量の推移 (2004. 6. 21)



第5図 播種時期別雑草量 (2004. 6. 21)